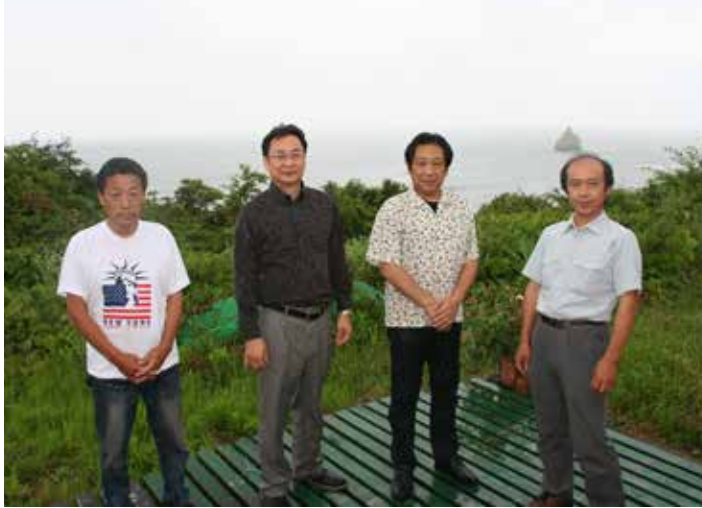


海の日芸術祭 ART & ECOLOGY

「ここ福島で生きる」を合言葉に
福島県在住の4人のアーティストが世界に向かう



太平洋に望む会場で左からなまためみちお、新井浩、浅野アキラ、吉田成寿
この右後方対岸に五浦六角堂の海岸がある



作品展示が行われる
ギャラリー



7月の第3月曜日は「海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う」ことを趣旨に1995年に制定された「海の日」。この日本の国民の祝日に、福島県で活動する4人のアーティスト、なまためみちお、新井浩、浅野アキラ、吉田成寿を中心に「海の日芸術祭」が誕生することになった。開催の迫った6月の中旬、その4人の作家が、芸術祭の開催地となった福島県いわき市泉町にある「ART PLAN Gallery」に集まって、打合せが行われるというので会場を訪ねた。

当日は、生憎の雨だったが、会場は「海の日芸術祭」を開催するのにふさわしい絶景の景色の中にある。太平洋に面した高台の上にある見晴らしのいい場所で、南の正面は、明治38年に岡倉天心が設計し建てられた、五浦六角堂（北茨城市・東日本大震災の津波により流失したが平成24年に再建）のある海岸で、その近くの天心記念美術館の白い建物が微かに見える。そして、視界には当然入らないが反対の北に50キロの距離には、原発事故を起こした福島第一原発がある。

この立地が、この芸術祭を象徴している。実行委員代表の画家・なまためみちおは、「私は、日本の美術を世界に向かって発信した岡倉天心を尊敬しているので、この地を選びました。ここから六角堂の方向を見ていると岡倉天心からのメッセージみたいなものを感じることが出来ます。一方、東日本震災から4年が過ぎましたが、津波、放射能災害の復興途中の中、われ

われは亡くなった方々への鎮魂と、また命を育む海への感謝の気持ちで、芸術祭を行いたいと思います。それも「ここ福島で生きる」を合言葉に、この地で活動する美術家たちで、世界に向かって発信していこうと思います。単に文化活動というような甘い言葉ではなく、世界にまっすぐ向かっていく力強い展開を考えています」

いかと思うんですよ。創造力は単に自分の中でできたものを発信するだけじゃなくて、鍛え直す必要もあるし、それが社会との関係でいちど補正を受ける必要があるだろうなと思ってるんですね。私自身のこの期間の作品発表は、声を掛けられない限り、絶対やるまいと思いません。逆の意味で。必要とされ

ることはあるだろうけど、こちらから行くことはないだろうと。何か声を掛けられてはじめてこちらが、発信するものをそれまでに何か作っておくべきだと思いますね」

と言うのは新井浩。他府県から大勢押しかけるアーティストの活動を見て、現地の作家として、冷静な眼差しで美術と社会

の関係を捉えてきた。「震災が起きた当時、私には小学生の子供が二人いました。その後の原発事故によって周囲には県外へと避難する子供や家族もいたのですが、私たちはこのまま郡山に住んでよいものかどうかを迷いました。結局、未だに住み続けていますけど、本当のところは、よく分からない

と、抱負を語った。参加する美術家は、なまための他に、福島市在住の彫刻家で福島大学教授の新井浩、郡山市在住の画家で郡山女子大学短期大学教授の浅野アキラ、そして画家・吉田成寿が、実行委員として出品する。

「福島県で集まって、海があると震災の話が、どうしてもでてくるんだろうとは思っていませんけど、ここ4年の間にいろいろな話を聞いてみると、それぞれが自分の都合のいいようにストーリーを作ってしまったって、僕はこここの状況を一言でいうと「創造力の暴走」があったんじゃない



なまためみちお《三美神》(左から 海の神 マリン 太陽の神 ソラ 大地の神 ガイア 各80x45cm



なまためみちお《幸福の赤い屋根、星降る夜》F6

なまため みちお

- 1957年 福島県生まれ
- 1979-1998年 上野の森美術館大賞展、青木繁大賞展
- 1982年 日本環境庁ポスター採用
- 1999-2005年 CAST IRON Gallery、CEIAM Gallery（ニューヨーク）で6度の個展
- 2012年 中日現代美術交流展（上海大学）
- 2013年 BASEL ART SHOW 招待出品（スイス）
- 2015年 NY JAPAN CLUB 個展（米国）



浅野アキラ《華麗なる関係》S 50号



浅野アキラ《彷徨える人》F15号 油彩画・土



浅野アキラ

1959年 福岡県生まれ
1989年 東京藝術大学大学院油画修了
1992年 第二回 JAPAN 大賞展特別賞によりパリで制作活動
2000年 ニューヨークで初の海外個展 (Cast Iron Gallery)
2002年 「浅野アキラの世界」 喜多方市美術館
2014年 上海城市芸術博覧会出品 (上海市)



吉田成寿《玄黄記 -11.8.25-》



吉田成寿《玄黄記 -02.5.5-》

吉田成寿

1965年 福岡県生まれ
1988年 東海大学芸術学部卒業
1990年 第16回日仏現代美術展 佳作賞
1998年 第4回さっぽろ国際現代版画ビエンナーレ
2005年 第6回高知国際版画トリエンナーレ
2007年 アートポート小名浜 2007 (いわき市)



われていくのか、これから、さまざまな活動が計画されているようだ。



新井浩《蝶が舞う里 -花咲く大地-》



新井浩《浅瀬に遊ぶ》

新井 浩

1961年 埼玉県生まれ
1983年 埼玉大学教育学部卒業
1994年 上越教育大学大学院修了
2003年 越後妻有アートトリエンナーレ
2004年 桜の森彫刻コンクール グランプリ
ブロンズ設置
2008年 個展 (日本橋三越本店)



ね」
放射能の影響を心配する父親として、そして作家として活動する浅野アキラ。「いわき市は震災か

です。作品に関しては地震や津波や原発事故を直接的に表現することはありませんが、ただ、やっぱり福島県に住んでいて様々な状況を目の当たりにしているわけですから、多少なりとも作品に影響を与えているとは思いますが。自分としてはそんなに意識していないんですけど、もしかしたら変化があるのかもしれない

の思いを馳せる場ができればいいですね。
私は長年《玄黄記》というテーマで作品を制作しています《玄》は宇宙の黒、《黄》は大地の黄色

という意味で、この星に存在する上での意識の在り方を作品に込められれば、という思いは変わらないのですが、震災後はいつくしむ心の尊さを強く感じています。実際に津波に流さ

7月14日→7月20日
ART PLAN Gallery
いわき市泉町下川字大畑 180-1

展示作品
若松光一郎、草間弥生、大山美信、深沢軍治、浅野アキラ、新井浩、会田誠、吉田成寿、大久保草子、長岡誠、なまためみちお

●コンサート 7月19日 18:00-20:00
～海、宇宙とセッション～
中嶋一座音楽パフォーマンス (入場無料)

問い合わせ
海の日芸術祭事務局
TEL.080-3196-5244

れているところを眼前にした画家の吉田成寿は被災したアトリエを再建中だ。
この3人の話だけでも、震災で受けた影響は大きく異なる。しかし、それから4年を美術家として、福島県で生きてきたことは変わらない。なまためみちおも同じだ。海外への作品発表も積極的に行ってきた。そして、全員が震災ということに捉われず、広い視点に立って、活動を開始しようとしている。毎年、続けていこうという決意と熱意が伝わってくる。ここから何が行

《海の日芸術祭》の4作家の作品は、インターネットで御覧になれます。
月刊ギャラリー アートの森 で検索してください。ネット上で購入できる作品もあります。

Click!!